

## 平成25年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会会議録

◇日時：平成25年10月24日（木）10時00分～

◇会場：石狩浜海浜植物保護センター

◇出席：石山優子、北條静香、松島肇、安田秀子（会長）、萬谷優子、渡邊千秋  
事務局：藤岡修一（センター長）、内藤華子（主査）、藤彰矩（主事）

◇傍聴者：1名

◇議題

1. 平成25年度事業中間報告について
2. 石狩浜ハマナス再生プロジェクト進捗状況と今後について
3. その他

◇資料

1. 平成25年度石狩浜海浜植物保護センター活動中間報告
2. 石狩浜ハマナス再生プロジェクト進捗状況と今後について
3. 日本造園学会北海道支部による学生ワークショップ提案デザインコンセプト

◇議事

【事務局】 （資料1説明）

【松 島】 資料1－3団体利用状況の表に、各団体の施設利用目的を記入いただくとわかりやすい。例えば、視察、自然観察、体験プログラムなど。

【石 山】 学校での環境学習における一回の滞在時間はどのくらいか。昼食を持って一日環境学習に取り組む団体はあるか。また、出前講座で依頼のあった石狩翔陽高校は、どのような講座内容か。

【事務局】 石狩中学校は9時～12時の行程を夏と秋2回実施、他の学校はだいたい1時間程度。昼食を持って一日かけて環境学習に取り組んだ団体はこれまでない。石狩翔陽高校の出前講座は、当センターのほかにも、石狩湾新港や石狩の観光、農業、歴史等、複数のテーマが設けられ、担当部署が対応した。保護センターでは、1回目が屋内講義で石狩市全般の自然を紹介、2回目が現地学習として保護センターや石狩浜の自然地を観察、3回目が、1、2回目を通じて見えた課題や提案をワークショップでまとめた。学校側でも今年初めての取組だったとのことだが、今後も継続してこのような取組を重ねていきたいとのことだった。

【松 島】 10/17札幌の市立小学校の利用があったが、感想はいかがか。今後も継続して利用いただけるのか。

- 【事務局】 マテックやパールライスも見学する、一連の社会科見学の中に当センターが組み込まれた形。肯定的な感想をいただいているが、次年度以降の利用については、未定。  
ホームページに学校利用の詳細を掲載しているため、これを見て利用を検討いただいたようだ。
- 【安 田】 環境教育支援申請があれば、もう少しきめ細やかな対応が可能だったと思われる利用（10/7花川小など）もある。  
全体的に団体利用も増え、ボランティア利用も増えているので、よい傾向と思うが、できるかぎりきめ細やかな対応ができるようにすべき。
- 【萬 谷】 広報いしかりにコラムを乗せると、啓発効果が高まるかもしれない。石狩浜のすぐれた自然環境やその保全状況を知らない市民が多いことを実感した。  
まだまだ来館者や啓発対象を増やして行く余地はあると思う。
- 【石 山】 学校での利用時に子どもたちが持ち帰り家族へ渡せるものがあるとよい。
- 【事務局】 カントリーコードは必ず渡している。石狩浜の自然と保全の必要性がよく伝わる。専門家や愛好家に対してだけでなく、初めて訪れる人や初めて学ぶ人たちの目線での情報発信が大切と考えている。共生の視点から、今後積極的に事業展開する余地は十分あると思う。
- 【安 田】 はまなすフェスティバルは、これまで石狩浜になじみのない人も集える機会になっていくと思う。  
7番に関連して、保護区指定にともなう効果は？
- 【事務局】 浸食により、浜崖がスロープになった箇所から、1件の侵入の報告があった。深刻な被害ではなかったが、発見した段階で新たな侵入を防ぐ柵を設けた。  
地道な活動で、あのエリア（弁天地区・親船地区）は走行できない、という意識を植え付けることも重要。
- 【安 田】 浜崖がスロープになった場所に、看板を立てるなどの対処は？
- 【事務局】 木製看板を侵入口に立てる等、より小まめな対処をしている。海側は浸食による消失の懸念もあるので、大きな看板は道路側に設置。
- 【石 山】 ロープは張っているが、なぜ入っていけないかが、一般の人にもっとわかりやすく表示等行うべき。
- 【北 條】 保護区のエリアをわかりやすく示す地図の作成はできないだろうか。

保護区の説明を簡単に示した資料を作成し、学校の学習の際に配布するなど。できないか。

【松 島】 保護区と保護区外をメリハリつけて区別することについては、良くも悪くもある。保護区と同じような囲い方を保護区でも行っているため。全体的に保護区のイメージがわかりやすい。逆であれば、保護区と保護区外の境界がわかりにくいので、全体的に保護区でない印象も受ける。

【事務局】 市および海岸管理者としては、保護地区であっても保護地区でなくても車両侵入は控えてほしいというタンス。保護区外の三線浜にかけてのエリアも、保護区ではないが、保護区と同じような形態で柵をしている

## 2. ハマナス再生プロジェクトの進捗状況と今後

【事務局】 今年度の状況説明後、現地を見て、その後次年度についてお話しする。  
(資料2説明)

(ハマナス再生地現地視察)

【松 島】 10/5(土)日本造園学会北海道支部による学生ワークショップで提案された使い方に関するデザインコンセプトを紹介する。(資料3)  
もう少し具体的なデザインは、今後できてくる。これらのコンセプトを取り入れていただければよい。

【事務局】 次年度以降について説明。(資料2)

【松 島】 このエリアは、石狩海浜ホテルの跡地と聞いている。これに関する情報を展示や資料で用意しておくとうい。可能であれば、海浜ホテルの模型なども専門化とのコラボで作成できるとよい。自然だけでなく歴史もある場所だということ伝えていければよい。

【事務局】 検討する。

【安 田】 はまなすサポーターの活動は具体的などのような活動になるのか。

【事務局】 はまなすフェスティバル実行委員会と相談しながら、活動日など決めていく。5月に活動を設けるなど活動頻度を増やしたい。

【萬 谷】 歩くスペースをきちんと道として確保すべきと思う。

【事務局】 その予定。ウッドチップの敷設等により散策路を明確にしていきたい。

【松 島】 ハマナスメインのゾーンも必要と思うが、全体では、ハマナスだけにするのではなく、自然の形で観察する場所には他の海浜植物も残していくべきと考える。

【事務局】 自然に逆らうことなく、目的もふまえつつ、維持管理をしていく。

【安田・松島・北條】

学生からの提案デザインをもとに、関わる市民団体とセンターとで具体像を話し合う場（ワークショップ）を設けては？

【事務局】 検討する。市民団体との意見交換を踏まえて、運営委員会で方針を決めるような形で進めたい。

【萬 谷】 運営委員会は今年度は2回ということだが、年間3回必要と思う。

【事務局】 次年度に以降、回数の増加を検討する。

### 3. その他

【事務局】 先の運営委員会でも将来的な課題として提示したが、今後、海浜植物保護センター運営のアウトソーシングを検討していきたいと考えている。民間による、柔軟性のある企画、運営により、来館者のさらなる伸びや、啓発効果をいっそう高めることが期待されるからだ。

【安 田】 センター開設にあたり、市民が運営に関わって行くことが重要なコンセプトとして位置づけられていたことを記憶している。

【萬 谷】 民間運営となった場合、市としての関わりはどうか？

【事務局】 市の施設であることは変わらず、設立の趣旨や目的は変わらない。これらの主旨・目的に従って、民間が運営していくというイメージ。

【松 島】 これまで市職員が担っていた専門性よりも、広くわかりやすく伝えるという役割を果たして行くことか。

【事務局】 市民活動と啓発という役割が強くなる。専門性については、ネットワークでつながる砂丘の風資料館等と連携を図りながら、情報提供はできるよう、計

らって行きたい。

アウトソーシングについては、まだ具体像を描く前の段階。様々なアイデアを出していただきたい。

【萬 谷】 はまなす再生プロジェクトのように、市からの事業発案も大切であり、行っていくべきと考える。

【事務局】 それは可能。また、保護区等保全施策は、引き続き市で行う。これから次年度計画に取り組んで行く中でも、様々な意見を聞かせていければと思う、

【安田】 では、時間になったので、第二回運営委員会を終了する。

以上

確認しました。平成25年11月22日

石狩海浜植物保護センター

運営委員会会長 安田秀子